

未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 6月号

「生きるぼくら」

冒頭のタイトルは、先日読みおわった「原田マハ」さんの小説の題名です。いじめがきっかけで不登校、引きこもりとなってしまった主人公が、祖母の田んぼを引き継ぎ、自分でしかも手作業で稲を育てることを通して、自分の足で歩き始めるまでの物語でした。その本のこんな言葉が心に残りました。

主人公の「人生」君と、「人生」君が田んぼづくりの中で知り合った、軽薄大学生「純平」君との会話です。(徳間文庫「生きるぼくら」原田マハより抜粋)

「どんな感じ?就活のほうは」人生に問われて、純平は、「まっ、ぼちぼちっす」と苦笑いになった。「でもおれ、決めたんっす。ここまできたら、結果を焦らない。落ち着いてじっくり攻めようって。それから、その・・・マスコミとか東証一部上場企業とかをねらっていたけど、会社の大きさとか名前とかにこだわるのは、もうやめようって」人生は、耳を疑った。ひと夏で純平は、ずいぶん変わった。いったい、何があったのだろうか。「へええ、そっかあ。すげえな。変われば変わるもんだね、人間って」人生がすなおに感心しているの、純平は、「なんすか。変わっちゃだめなんすか。」としきりに照れて、赤くなっている。

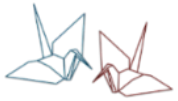
変わっちゃだめなわけがない。むしろ、おれらは、どんどん変わっていかなくちゃならないんだ。この稲のように、空に向かって伸びて、花を咲かせ、実を結ぶ。季節とともに変わり、成長して行けるはずなんだ。

僕は、稲の生長になぞらえたこの描写が、毎日顔をみている子どもたちと重なって、まさにこの子たちは「生きるぼくら」だなあと感じ、本を置きました。運動会をご覧になっていただいて、子どもたちが、この小説の描写の様に空に伸びて、成長している様子を感じてくださった方も多かったのではないのでしょうか。

何度もここに書きましたが、どんな子どもであっても、よりよく伸びようとしています。それは、様々な不適應の行動がある子どもであっても全く同じです。大人が、その子を認め、適切に関わり、その子を信じ抜くことで確実に変わっていきます。

一方、僕ら大人はどうでしょうか。自分を取り巻く状況や自分が置かれた立場等で、変わらない・変えようとしてできないことも多いように思えます。ある学級のクラスルームに、こんな子どもとのやりとりが掲載されていました。「先生も失敗してば

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和8年6月4日発行



かりだよ。先生も成長しないとだめだな…。」とつぶやいたら、ある子が、「子どもと一緒に考えて、反省して、勉強する先生っていいですね!」とってくれました。というものでした。

僕らは、いつも子どもより上の位置で、教え導く立場だと考えていると大きな間違いをします。ある意味では、同じ「人」として、一緒に学び、一緒に伸びていくことが必要なのではないかと考えます。子どもは、生きるぼくら(自分たち)と一緒に考えて、一緒に振り返り、一緒に伸びようとしてくれる大人を、そして親を求めているのではないのでしょうか。

自分のことを棚に上げて、「正しいことを正しく伝えている」だけだと、必ず子どもに見透かされます。あなたの後ろ姿もあなたの言葉も、子どもたちはしっかり見て聴いて、良いことであれ、悪いことであれ学びます。しかし、同時に毎日、毎日、子どもたちは、様々な友だちと教員と共に協働の学びの中で学んで、成長していくのです。子どもたちの思いや考えが、親御さんの思いや考えの囲いの中で収まっていればよいですが、自分主体で考え続ける子どもたちは、あっけなく、親御さんを超えていくでしょう。その時、僕ら周りの大人や親御さんが、常に伸びて変わって行く存在でなかったら、どうなると思いますか。

残念ながら、そこに良い関係はなくなってしまうのではないかと考えます。「親」であっても、できないことも、苦手なことも、分からないこともいっぱいあります。それがダメなのではなくて、子どもと向き合う1人の「人」として、「自分自身をどうしたいのか、今はできないけれど、こうありたいんだ。」と、自分を見つめ、変わり成長する自分でなければ、そういった子どもとしっかり向き合って語るための、あなた自身の言葉をもてようはずがありません。

運動会当日、保護者の皆さんが並ばぬように時間を調整して来校くださったので、本当に助かりました。フジスーパーやコーナンプロへの駐車もしてはいけないこととご理解くださった方が大部分でした。残念ながら、警備の方を配置していない茅ヶ崎内視鏡と内科の総合クリニックの駐車場を無断で使った方が多数いました。**そうできてしまう自分で本当によいですか。教頭が頭を下げた事実を分かってほしいと思います。でも、僕はいつかきっとご理解いただけると信じ続けます。**

僕ら大人も、「生きるぼくら」です。空に向かって伸びて、花を咲かせ、実を結ぶ、成長していけるはずの存在なのです。そうありたくないですか。